



第 2 号

令和6年3月1日発行

八町小学校運営協議会

豊橋市八町通五丁目5

TEL 52-1184

## 子どもの笑顔のために

### 思い出の足跡(4月～12月) ①

#### ○ 八町まつり(11月12日)

- ① PTA(鈴木誉也) 役員 8名  
委員 30名

- ② ・クラス委員による手作りのお楽しみ企画(ボーリング・魚釣りゲームなどの企画)

- ③ ・ケーキなど食べ物コーナー  
約500人



#### ○夜の宝探し大会(8月5日)

- ① ファイトクラブ(下田真史)  
(12名)

- ② 運動場にまかれていた色とりどりのビーズを懐中電灯などを使って見つけ、その景品としてお菓子などをゲットする

- ③ 親子合わせて300人以上  
④ 低学年の子と高学年の子の二部制で実施



#### ○名称(実施日)

- ① 主催者(関係者数)  
② 内容  
③ 参加者数  
④ その他

#### ○八町サマーチャレンジ

(8月4日～10日)

- ① 学校運営協議会(吉見正樹)

(10名)

- ② 夏休みを利用して子どもたちの学習を支援する

- ③ 5日間で延べ60名

- ④ 今年度から、新たにスタート



#### ○旭・旭本町合同夏祭り(8月19日)

- ① 旭・旭本町鬼祭り青年(橋本創)  
(約30名)

- ② 両町内の子ども、大人の親睦と交流を深めるため

- ③ 桜丘高校の太鼓演奏、流しそうめんや盆踊り、ヨーヨー釣りなど

- ④ 子ども約60名、大人も多数  
15年くらい前から実施



#### ○飽海町による豊橋祭り総踊り

(10月21日)

- ① 吹野幸生・井本和茂(72名)

- ② 豊橋祭りに天狗とともに大人も子どもと一緒に参加して楽しく踊る

- ③ 幼児も含め子どもは約50名

- ④ 練習は飽海保育園で2回。

- 乳母車、リヤカーに子どもも大人も花飾りを作って飾り付ける。  
今年で18回目の参加。



校区内・町内の子どもたちを対象にした企画を掲載しています。今後、順次掲載しますので、実施した企画がありましたら、八町小学校に連絡ください。なお、営利目的や各種クラブチームなどが計画したものは除外します。

## 第二回 学校運営協議会

令和五年十一月三十日

### 話し合われた内容

(一部抜粋)

(1) 「八町サマーチャレンジ」

について

①実施日 8月5日(金) 10日(木)の5日間

②参加児童 18名

③参加サポーター 10名

このサマーチャレンジは十年前まで小学校が講師を依頼して実施していたが、今回は学校運営協議会が内容を一新し、独自に開催した。回覧で校区民にサポーター(児童の学習応援)を募集し、10名が参加してくれた。元教員ではない方からは指導できるか心配の声もあったが、子どもと一緒に考えたり、辞書を使ったり、共に学びながら取り組んでいた。

○来年以降、参加者が増えた時の対応は？

●すでに高校生からのサポーター希望の声もあるし、保護者も子どもといっしょに来ながら参加しても・・・

○以前は夏休みの絵や感想文・習字の課題などを見てもらっていたが、それとは違うのか？

●今年は、宿題提出日の翌日から開催することにした。学習の場の提供と、自分から学ぶ子の支援の場として開きたい。今後、更に校区の方々に応援・参加してもらえよう輪を広げたい。

(2) 機関紙「八町コミュニティ」の発行について

児童の活動の様子は学校やPTAからの新聞で紹介されているが、この機関紙は学校・児童への大人サイドからの関わりを取り上げていくので、視点が違う。八町はボランティアで積極的に協力している団体や個人が他校区に比べ、多いと思う。こうした校区の良さを積極的に発信していきたいし、その輪をさらに広げるための機関紙でありたい。

○子ども支援を通して、校区民がつながるといい。

○今まで子どもに関することは学校に任せていたが、こうした機関紙発行も学校ではなく、この運営協議会が発行していかないと学校側の負担増になり、子どものためとはいえない本末転倒となる。無理のない範囲で進めていけばよいのではないか。

○こうした内容はすべての校区民に知ってほしいので、回覧ではなく、全世帯に配付がよい。

## 第二回 学校運営協議会

令和六年二月十五日

### 話し合われた内容

(一部抜粋)

(1) 八町小学校の教育活動の評価について

山岡教頭より児童・保護者・教職員によるアンケート結果の説明を受け、意見交換をしました。学校評価報告書は、八町小学校ホームページでも見ることが出来ます。

(2) 「令和6年度の活動に向けて地域でできること」についてグループ別「熟議」

①「登下校を含めた児童の安全面について」

○老人会に依頼して危険個所での交通立ち番をやっていただいている。校区内は脇道も結構車が多いので、八町サポーターにも声をかけて、危険個所に立つだけでなく、時間を問わず、散歩時などにも黄色いベスト

を着用してもらおうなどの協力をお願いしたらどうか。

○黄色いベストは目につくので、校区の多くの人に配付し、登下校時に着用してもらい、見守り活動を校区ぐるみの運動にしてはどうか。

②「子どもの体力向上に向けて」  
○部活動や夏のプール開放もなくなり、遊び場も制限される中、学校や保護者任せではなく、地域で考えたい。

○放課の時間を長くとってほしい。掃除を減らすなど、日課の工夫が必要である。

○校庭開放・体育館開放に向けて見守り体制やけがの保険など予想されるさまざまな条件を洗い出し、提案できるとよい。



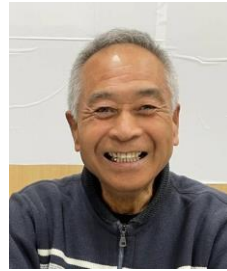
学校運営協議会のメンバーです



# 人・ひび・ユト

今回はワイワイクラブ代表の藤本英彦さんにお話を聞きました。

ワイワイクラブという名前の由来は？



藤本…最初の頃は特に名前 wasn't なかったように思います。確かこの名前は2006年8月に豊橋市制100周年記念事業として「八町ワイワイフェスタ」を実施したことに関係しています。自治会を中心に輪投げやファミリーコンサートやヨーヨー風船つりなどのゲーム大会があったり、和太鼓や津軽三味線の演奏があったり、打ち上げ花火もあったり盛り沢山のイベントが行われたんです。そのイベントは1年だけだったのですが、その名称から「ワイワイクラブ」と名前をつけたと思います。

どうして食べ物を子どもたちに？

藤本…20年以上前にPTA活動の見直しが行われましたが、そのことがきっかけでスタートしました。PTAとして子どもたちが楽しむことができる活動に力を入れたいという声が高まり、「八町まつり」をやることになったんです。そこではPTAの役員や委員さんは「クラス企画」としてお化け屋敷や子どもボーリングなど行うことを決めました。さらにせっかくだるなら子どもたちに食べ物も提供できるといいよねという声も出てきてね。それじゃ、PTAとは別に有志が集まって豚汁を提供しようということになったと聞いています。他にもベルクラブではだんご、ファイトクラブではチョコバナナなどPTA役員OBなどの協力もあって広がっていったと思います。

今年はどうでしたよね？豚汁から変えたきっかけは？

藤本…ちよつと前になりますが、和歌山で毒物カレー事件がありましたよね。それがきっかけだと思ふんですが、保健所の指導もあり、変更しました。また、

コロナ明けの今年度はいろいろ値段も高くなりうどんだけにしました。

藤本さんはいつごろから関わっているんですか？

藤本…自分は二代目の丹羽仁仁さんのときからです。初代代表の太田豊さんのときは直接、関わっていませんでした。

メンバーについて教えて？

藤本…初めの頃から参加しているのは私の家内と、福谷啓子さん、鈴木伸幸さん、井本玲子さんですが、その後だんだん増えて現在10名ほどでやっています。長いこと、このメンバーで実施しているの、最近では「あうん」の呼吸で簡単な打ち合わせしかしません。食べ物の材料の準備や買い出し、はそりという大きな鍋などの道具を借りに行くことなどそれぞれ気を利かせて動いてくれ、自分は楽しませてもらっています。

今年の様子はどう？

藤本…うどんを300杯ほど準備しましたが、1時間足らずで完売でした。販売前からたくさんの方が待つてくれていたし、売り切れるまで作り続けてい

て誰が来ているかもわからない状態でした。



長い期間ボランティアで代表を務めてみえるわけですが、そのエネルギーは何？

藤本…一言で言ううと、この校区が好きっていうことかな。子どもたちもこの校区が好きでいてほしいと思います。これからも、知らず知らずのうちに20年以上経ってました。これからも体が動く間はやりたいですね。また、同じ思いをもつて見える方もきつと思ふうんです。ぜひ一緒に仲間に加わってほしいです。そしてもし自分ができなくなったら引き継いでほしいですね。

# 八町サポーター募集

子どもは地域の宝

地域の子どもたちは、地域で育てる！

新しく学校運営協議会（八町コミュニティ・スクール）がスタートをして1年が過ぎようとしています。

『コミュニティ』とは自治体や地域社会という意味ですが、もう少し言葉を変えますと「居住地域を同じくし、利害をもにする共同社会」つまりお互いにつながりのある社会のことです。そしてそんな社会における「コミュニティ・スクール」について文部科学省では

学校と保護者や地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」

といい、地域とのつながりを重視しようとして平成二十九年より、全国で導入が進められてきています。

しかし、完全実施までは時間がかかります。

一宮市と豊田市しか全校区実施はしていません。豊橋市においては八町小学校を含め4校がモデル校として先行実施しているだけです。この「地域とともにある学校」作りを通して小学校に通う児童の保護者や地域校区民が子どものためにできることを協力・手伝いをしていく中で、校区民がより知り合い、お互い気軽に声かけできるような関係をつくり、希薄になりつつあるつながりを深めていくことも期待されています。

そんな思いをご理解いただき、保護者や校区民の皆さんに、八町の子どもの応援団として八町サポーターに登録していただきますようお願いいたします。

いたします。今後、運営協議会として学校の要望や各種団体等のいろいろな情報をお知らせしていきますが、登録いただいた方には無理のない範囲でお手伝いや協力いただければ幸いです。

まずは、左記の文面を参考に登録をお願いします。

## 登録の仕方

- ① 右下のQRコードを読み込む
- ② ウェブサイトを開く
- ③ 下の団体コードと登録用コードを入力する
- ④ 「登録」する



団体コード hacchousyou  
登録用コード BThPui

## 創立150周年 記念事業報告

11月18日（土）に八町小学校創立150周年記念式典を盛大に開催することができました。校区の皆様や同窓生、各企業・事業所等から多大な寄付金をいただき、ありがとうございました。なお、みなさまのご厚情のおかげで下記のことを小学校へ寄贈することができました。

創立150周年記念事業実行委員会

会長 神野 吾郎

委員長 吉見 正樹

- 1 150周年記念誌（400冊）
- 2 あすなろ文庫（706冊）
- 3 記念DVD・記念クリアファイル
- 4 銘板（木造校舎・あすなろ文庫）
- 5 玄関に掲げる学校沿革史
- 6 その他、物品（小学校関係分）

## ベルマークで冷水器を購入！

前号でベルクラブ（藤田代表）の活動を紹介しました。今年度も校区の皆さんからご寄付いただいたベルマークを会社ごと整理し、貼付する活動を続けていただき、たくさんの点数を獲得しました。そして今回、小学校と相談して、今まで獲得した点数の中から約15万点を使って冷水器を購入することができました。ご協力ありがとうございました。



設置された冷水器